

のり海況速報 第11報 (26-11)

平成27年 2月19日発行
 千葉県水産総合研究センター
 東京湾漁業研究所
 千葉県農林水産技術会議

資料 のり海況調査 2/16：内湾(ふさなみ)、2/17：内房北部(ふさなみ)
 関東・東海海況速報(2/6-19)、東京湾口海況図(2/6-19)
 自動観測ブイデータ(2/6-19)、拓南観測データ(2/6-19)
 モニタリングポスト(2/16：国交省関東地方整備局)

【水温・塩分の状況】

- ・内湾の表層水温(図1)は1月下旬からほぼ横ばい状態が継続し、16日現在おおむね8~10℃台で推移しています。塩分はほぼ31台後半~32台で、依然平年より高めになっています。
- ・調査ラインの水温・塩分の鉛直分布(図2)では、水温・塩分とも表層から水深20m付近までは一様に分布しています。
- ・内房北部の表層水温もほぼ横ばい状態で、10~11℃台になっています。
- ・東京湾口への沖合水の流入は小康状態で、19日現在湾口部の水温は14℃台に止まっていますので、現状ではのり漁場への影響は少ない模様です。

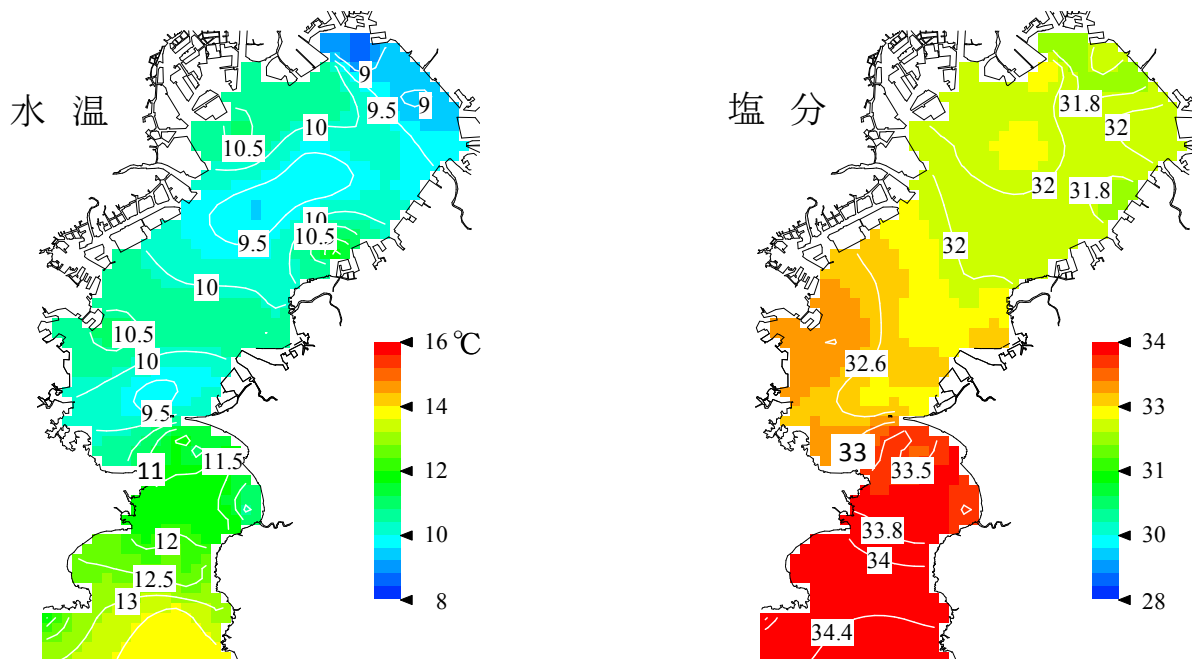


図1 表層の水温・塩分の分布(平成27年 2月16-17日)

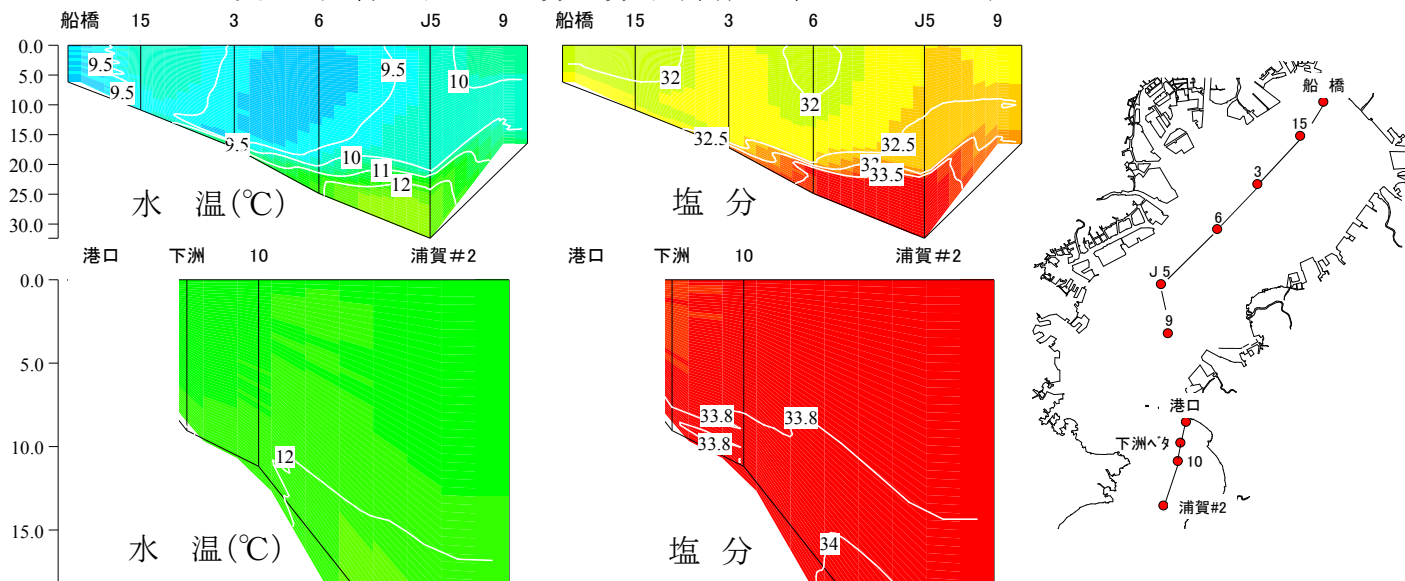


図2 調査ラインの水温・塩分の鉛直分布(平成27年 2月16-17日)
 (上：内湾、下：内房北部、右：調査ライン)

【赤潮・栄養塩の状況】

- 赤潮はほぼ終息しましたが、タラシオシラやキートケロスなどのケイ藻プランクトンが多くみられ、千葉県側ではpH8.4とやや高く、水色もやや褐色を帯びているところが見られました。
- また、のり色落ちの原因となるユーカンピアも出現し始めています。
- 表層の栄養塩(図3)は窒素(D I N)は十分ありますが、リン(D I P)が前回(2/3-4)よりさらに少なくなっています。内湾各地区のノリ漁場及び大貫ベタ流し漁場周辺ではノリの色素低下が懸念されるレベルまで減少していますので、今後もこの動きには注意が必要です。

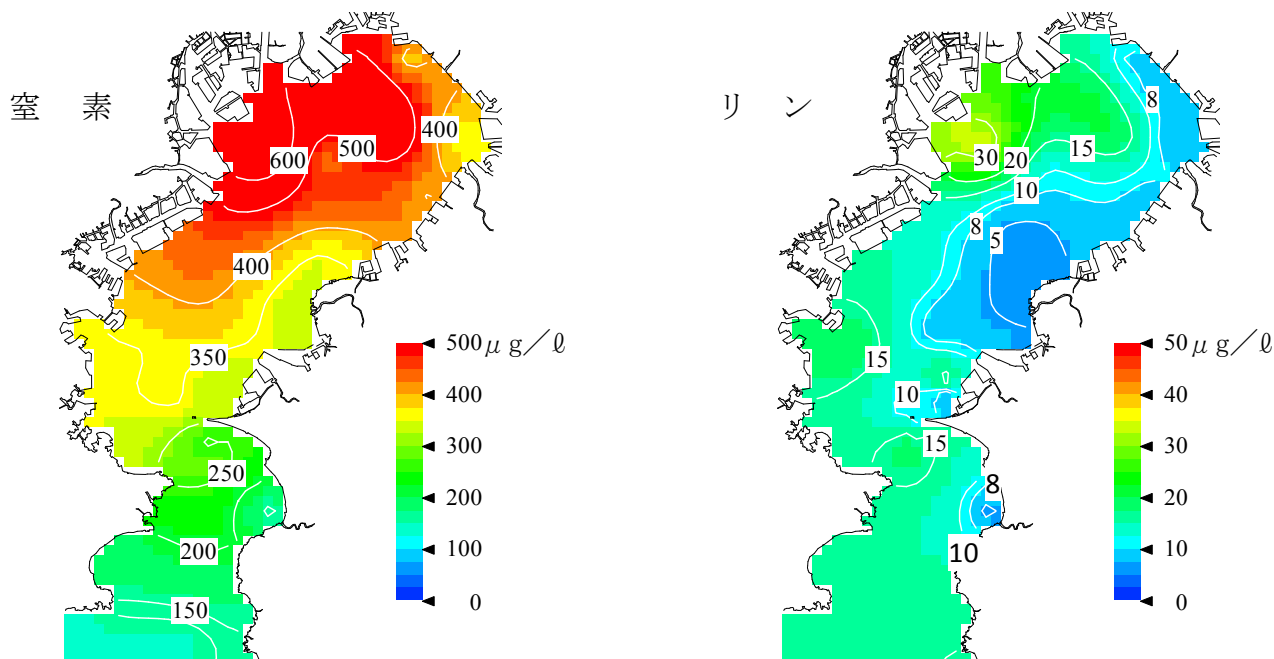


図3 表層の栄養塩濃度の分布(平成27年 2月16-17日)

川養殖場水温予報のお知らせ

今年も、各川養殖場(三番瀬, 盤洲北部, 盤洲南部, 富津岬北, 富津岬南)について、5日先まで表層水温を予報します。パソコンまたは携帯の検索サイトで”川養殖場水温予報”で検索するか、下記アドレスを直接入力してご覧ください。

パソコン：http://www.pref.chiba.lg.jp/pbcbisuishi/cbtk/04tk-yohou/main_frame.html

携帯：http://www.pref.chiba.lg.jp/pbcbisuishi/cbtk/04tk-yohou/mobile_forecast.html